

産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禅洞診療所
 ◎ 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄越878-16
 IP Tel: 058-295-9545
 FAX: 058-296-3903
 E-mail: zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.com/web.html/

第45号 2012.2.1

毎月1回発行 産禅洞診療所 取寄金

ベルリン雑感

松井英介

新年をベルリンで迎えた。

毎日雪で、凍りついた道路を滑らないようにと歩いた2年前と違って、暖かなベルリンだった。

クリスマス・イブの日、KeDeWe（カーデーヴェー：デパートの名前）へお昼を食べに行った。近くの店が閉まっているし、KeDeWeならおいしいものが食べられるかなと・・・KeDeWeの中はいっぱいの人。身動きならないほどだった。売り場に小さなテーブルやカウンターがあって食べさせてくれる。魚のところは空きそうになく、イタリア食材のところで待って、カウンターへ座った。ミニトマトにチーズを詰めたもの、ミニ玉ねぎ、オリブにニンニク、生ハムなどの盛り合わせサラダを二つ注文したら、ひとつで充分だよと、お姉さんがにっこり。ワインも注文。おいしいパンもついてきた。おいしい食材とワインでお腹がふくれ、会話も弾む。食べ終わった頃、「よいクリスマスを」と働いている一人が同僚に挨拶して帰って行った。今日は午後2時で閉店なのだ。客たちも帰りはじめた。みんな静かに話しながら正面玄関へ。売り場はさっさと片付けられていく。その速いこと。閉店の音楽もアナウンスもない。今日はみな家路につき、家族で過ごす日。街の中は静かになっていく。

新しい年を迎え、花火が上がる。どの町も花火大会のようになる。夜空360度、大輪やジェット花火が飛び交い、興奮が続いた。元旦の翌日は平常に戻って、仕事。クリスマスからの長い休暇が終わった。

1月4日、ベルリン工科大学で「低線量」内部被曝の講演を行った。学生たち、物理学者、チェルノブイリの救援を行っている医師たち、ベルリン在住の日本人たちも来て、講義室は満員となった。

日本ほどではないが、ドイツでも「低線量」内部被曝については一般にはあまり知られていなくて、講演



ベルリン中央駅

が終わった後、アイヒホルン教授が「だから、わたしたちは読み書きを教わらねばならない/Laß uns alphabetisieren!」（いろはを学ばなければならない）と語りかけていた。

翌日、反核医師の会の医者たちや放射線防護協会の人たちと話し合った。チェルノブイリ原発事故から今も続いている支援活動、汚染の実態などを聞いたり、これからの交流などについて意見交換をした。ベラルーシは、ナチス・ヒットラーの迫害で人口が半数ほどになり、その後ソビエト政権下でも大変な時期を送り、やっと何とか元に戻った時に、チェルノブイリの事故で被害を受けた。謝罪も込めたドイツの人たちの懸命な支援活動によって、お互いの気持ちが通じ合い、よい関係が生まれたという。日本の私たちにも教訓となる話だった。1000の団体が、被災した子どもたちを保養のため招いたりしたが、戻るとまた被曝し、あまり効果はなかった。汚染の少ないところへの移住を考えるべきだと言われた。

以前は買って帰りたいものが多かった。でも今は日本もドイツも変わらない。交通費や食品の価格は、日本よりずっと安いと感じる。列車、地下鉄、バスどれでもフリーに何回でも乗れる「ベルリンカード」を買って使ったが、5日間で29.9ユーロ（約3000円）で大変お値打ちだった。ベルリンは大きな街。交通網も発達して便利。街中はもちろん、空港との行き来も、郊外へも、毎日何回となく乗って、よく歩いた。